

## 2020年度経済地理学会名誉会員候補者

森川 滋会員

### 名誉会員推薦理由

森川滋会員の研究は実態分析と政策研究の両面で行われてきた。主要な研究領域には、日本工業の地域構造研究、大都市工業の特性や各地の工業立地に関する研究をはじめ、物流に関する研究がある。これら領域で多くの研究成果をあげてきた。加えてイギリスなどの海外における工業立地の実態を踏まえて、地域政策研究や立地理論研究にも取り組んできた。

上記の研究成果は、経済地理学年報などの主要な学会誌等に発表されたほか、『日本工業の地域構造』（大明堂、1977年）、『現代大都市の構造』（東京大学出版会、1978年）、『流通・情報の地域構造』（大明堂、1979年）、『地域の概念と地域構造』（大明堂、1988年）、『現代世界の地域システム』（大明堂、1996年）、『地域政策のすすめ』（法律文化社、2002年）、『イギリスの産業立地と地域政策』（共訳、ミネルヴァ書房、1986年）、『立地と空間—経済地理学の基礎理論—（上・下）』（共訳、古今書院、1997年）などの中にまとめられ、学界へ大きな貢献をされた。また、本学会第30回大会(1983年)、第34回大会(1987年)や支部例会などにおける多くの研究報告をはじめ、第24回国際地理学会議(1980年)でも報告され、学界・学会に対し大いに刺激を与えてきた。加えて、関西圏や中部圏を中心とした各種の実態調査・研究を手がけられる中で、経済地理学研究の意義を社会に発信してきた。

同会員は、名古屋大学大学院文学研究科博士課程中退後、名古屋大学文学部助手を経て、大阪経済大学に着任された。教育・研究に従事されるとともに、大阪経済大学中小企業・経営研究所所長も務められた。退職に際し大阪経済大学名誉教授の称号が授与されている。本学会には1964年に入会され、会員歴は50年以上に及んでいる。この間、本学会の役員として、幹事(1979~1996年度)をはじめ、関西支部代表幹事(1988~1990年度)、関西支部長(2004~2005年度)を務められ、学会運営に多大なる貢献をされた。また、関西支部例会を中心に若手研究者の報告に対し、優しく適切なコメントをされるなど、後進の育成にも尽力された。

以上のように、森川滋会員の長年にわたる学界・学会活動への貢献・功績は名誉会員にふさわしいものであり、ここに名誉会員として推薦する。

### 名誉会員推薦委員会

松原 宏(委員長)、伊藤健司、鋤塚賢太郎、近藤章夫、末吉健治、土屋 純、根岸裕孝、宮地忠幸